

本研修のねらい

目的： 図書館を取り巻く様々な情報環境の変化やトレンドを踏まえ、既存のウェブサービスの活用方法を紹介するとともに、これからのウェブを活用した図書館サービスについて考える機会を作る

範囲： 主にウェブサイトを中心として、ユーザの閲覧環境や検索エンジンなどの関連するトピックを取り上げる

目標： 図書館の情報資源とウェブサービスを結びつけたアイデアを提示できる

1. ウェブサイト閲覧環境の変化とデザインの志向

- モバイルファースト：スマートフォン、タブレットでの閲覧を主流としたデザインを志向すること。
- レスポンスデザイン：閲覧する端末の画面サイズに合わせてレイアウトが変化するデザインのこと。スマートフォン、タブレット経由のユーザが急増し、様々な解像度に対応するために考えだされた。
- スキューモーフィックデザイン：ユーザが日常で使用しているモノにユーザ・インターフェスを似せることで、機能や操作方法を暗示するデザイン手法。iPhone などのスマートフォンにおいてかつて多用された。
- フラットデザイン：平面的でシンプルな色調や図形でユーザ・インターフェスを表現するデザインのこと。ユーザがウェブサイト閲覧するディスプレイの性能が向上したこと等の理由から提唱された。

2. 検索エンジンの動向

- 検索エンジンのウェブページ評価指標
 - 「キーワード」重視から「構造化データ」重視へ
 - ウェブページに埋め込まれた構造化データが検索結果の表示に影響を与える → リッチスニペット
- 構造化データをウェブページに埋め込む方法の規格化
 - Schema.org：Google, Bing などの検索サービス事業者が中心となって策定している、ウェブページに埋め込む構造化データの語彙集。イベント情報やレビュー情報などを検索エンジンが易く見つけやすくなる。

3. 政府・自治体におけるオープンデータの取り組みと利活用

- オープンデータ：著作権や特許の制約なく、誰もが再利用・再配布できるように提供されたデータ。機械可読なデータであることが推奨されている
- 政府のオープンデータの取り組み
 - DATA GO JP (<http://www.data.go.jp/>)
 - Open DATA METI (<http://datameti.go.jp/>)
- 自治体のオープンデータの取り組み
 - データシティ鯖江(<http://data.city.sabae.lg.jp/>)

4. ソーシャルウェブサービスの現状と利活用

- ソーシャル・ネットワーク・サービス (SNS)を中心とした情報行動が一般化
 - 「自分で検索する」情報探索から「人から情報を紹介してもらう」情報探索への変化
 - ソーシャルネットワークの中にいかに情報を提供していくかが重要となりつつある → Twitter、Facebook、Line での公式アカウント
 - 単なる情報の提供だけでなく、情動に訴えるような広報活動が目立つ → NHK の Twitter 利活用事例、
- キュレーションサービスの登場
 - キュレーションサービス：ユーザが簡単に既存の情報を組み合わせ、二次的な記事を生み出すためのサービス
 - 利活用されやすい記事づくり、情報提供が重要になりつつある
 - ◇ Creative Commons

5. 図書館サービスに関連するウェブサービスの事例

- カーリル (<https://calil.jp/>)
- レファレンス協同データベース (<http://crd.ndl.go.jp/reference/>)
- 国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp/>)
- LibGuides (<http://springshare.com/libguides/>)
 - <http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/index.php>
- CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>)
 - 2015年より博士論文検索サービスを提供
- JAIRO (<http://ju.nii.ac.jp/>)